

ヒグマ生息地における登山の行動規範の策定と 登山利用者への情報提供

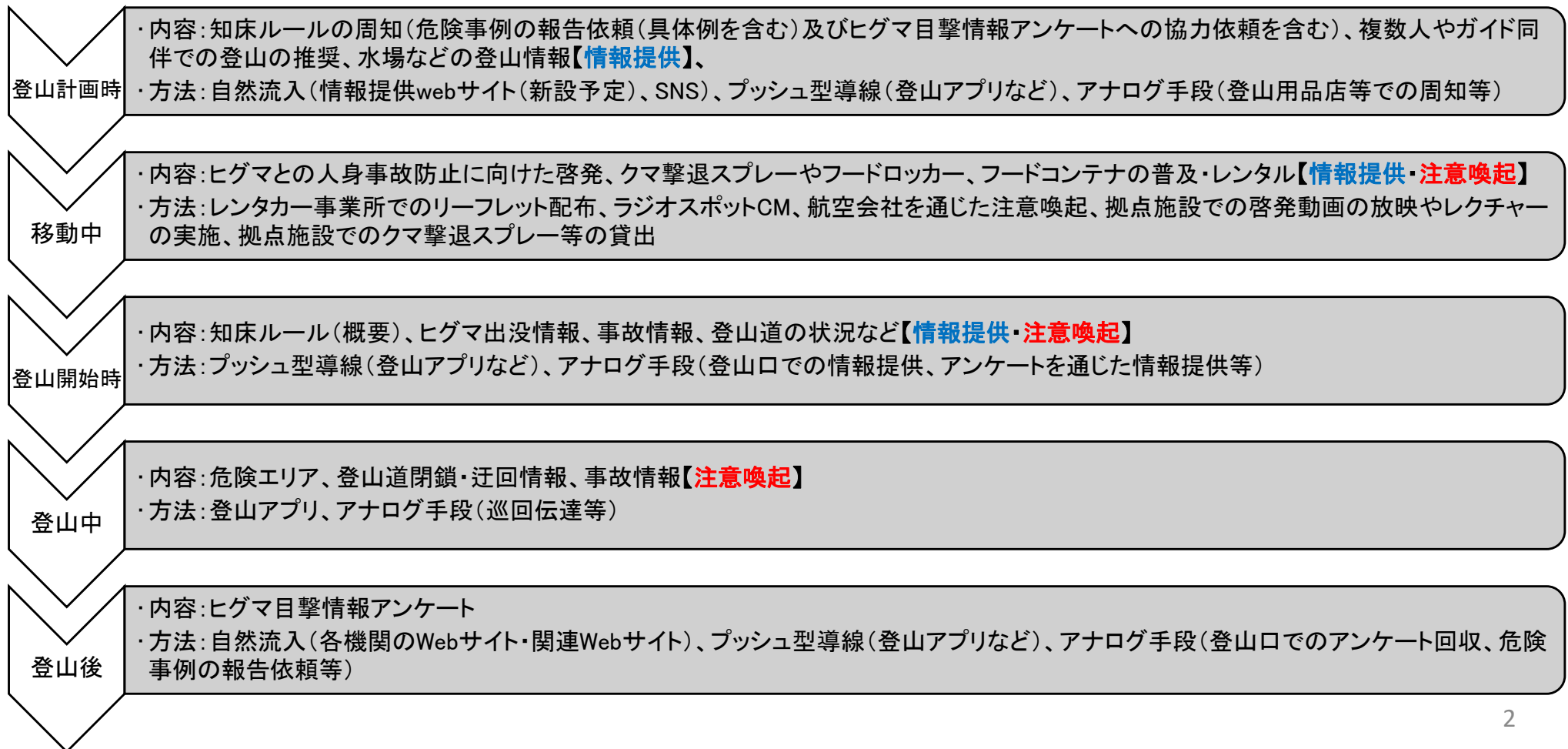
< 検証から導かれた課題と対応の方向性 >

- 日常的なヒグマ情報の発信は知床全域で取り組まれてきたが、ヒグマ生息地における登山の行動規範（単独での行動、早いペースでの移動や、薄明薄暮時、夜間、霧の時など視界が悪い時の活動を控えるといった、ヒグマとの突然の遭遇をさける行動、クマ鈴・クマ撃退スプレーの携行、ゴミや食料の管理等）については、十分に認知されず行動変容に至っていない可能性が高い。
- 行動変容に影響する情報提供のあり方の観点として、登山者の情報収集や行程の検討・決定などのタイミングも考慮した情報提供が課題
- 登山利用者に対し、計画段階においてヒグマ生息地における登山の行動規範を情報提供することが必要である。

具体的な施策① 登山利用者の視点に立った情報提供

- ・ ヒグマ生息地における行動規範としては、環境省釧路自然環境事務所が「知床国立公園 知床半島中央部利用の心得」(以下、便宜的に「知床ルール」とする。別添参照)を整理
- ・ 行動規範として発信する内容は引き続き知床ルールを基本とする
- ・ 登山利用者が知床ルールの内容を理解し、実際に行動変容に至ることを目指し、利用者の視点に立った情報提供に取り組む

○登山利用者への情報提供フロー(イメージ)



具体的な施策① リスク情報の効果的な発信(コンテンツの全体像(案))

発信する情報の内容

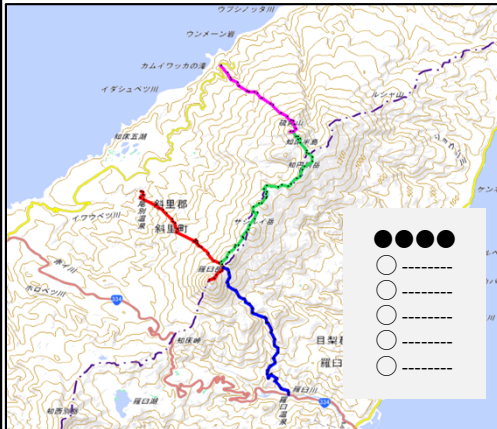
- 発信する情報は、ヒグマ情報のみならず、登山全体の安全対策や利用者の便益に資する総合的な内容とする必要がある。
- 情報の性質や内容に応じたカテゴリを明確にし、項目立てすることで、整理された情報がわかりやすく伝えることをめざす。
- 安全に係る情報としては、原則として変わらない「基本ルール/行動規範」と常に変化する「リスク情報/注意喚起」の2カテゴリに明確に分けて発信する。

発信する情報のデザイン

- 適切なデザインにより、視認性や平易性を確保する必要がある。
- 特に、テキスト情報は最小限とし、直観的な理解を促すデザインが重要。
- デジタルとアナログの両者に対応するデザインが求められる。
- 複数のメディアに統一的な情報を発信することを前提に、デジタルデータとして作成・編集することが望ましい。

1.登山道の概要・登山道情報

1-1.登山道概念図・コース説明(固定) 1-2.登山道情報(更新)



【登山の便益情報】

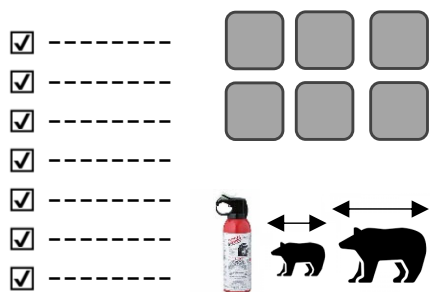
日本語・English Info

- アクセス情報
- 雪渓の情報
- 水場
- 携帯トイレ
- 野営場
- スプレーレンタル

2.登山のルール・安全対策(固定)

2-1.利用の心得・ヒグマ知識など 2-2.登山届関係

知床連山利用の心得



登山届提出



3.リスク情報(更新)

3-1.ヒグマリスクの程度

リスク情報について(説明)		羅臼	硫黄	縦走
閉鎖				
警戒				
注意				
通常				
DD				

3-1.アラート情報・特記事項

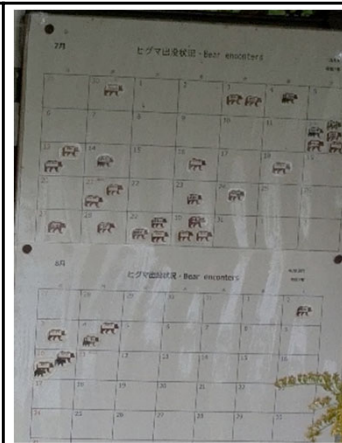
ヒグマ警戒情報

- 個別の危険情報
- 要注意情報
- 行動上の助言

その他リスク情報

- 事故情報・遭難情報
- 危険箇所
- 行動上の助言

3-1.ヒグマ目撃情報(継続)



4.その他・掲示板(自由)

時刻表
など

マイカー
規制
など

携帯
トイレ

電波
入感
情報
など

5.登山後・投函ポスト

ヒグマアンケートの
依頼



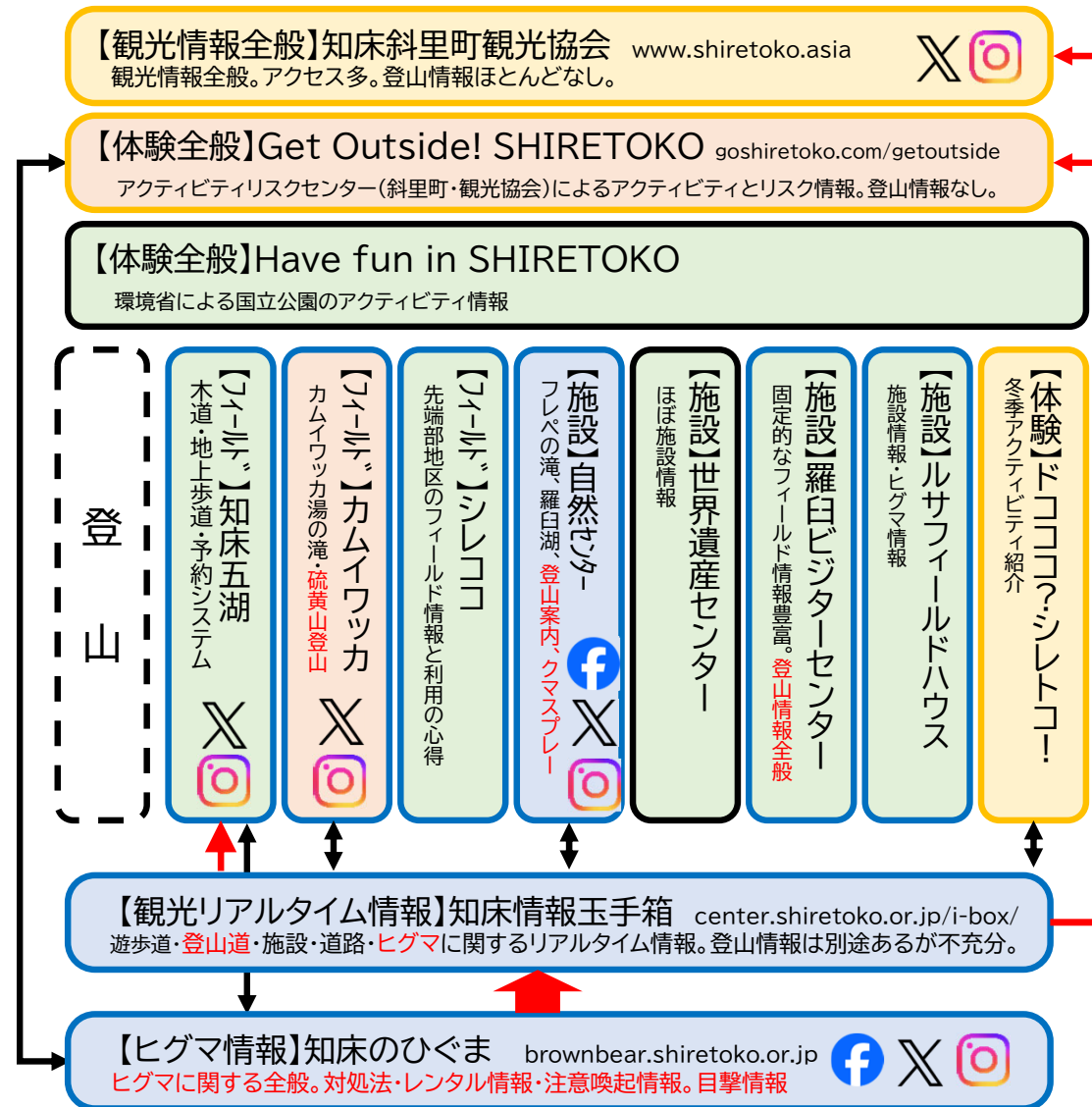
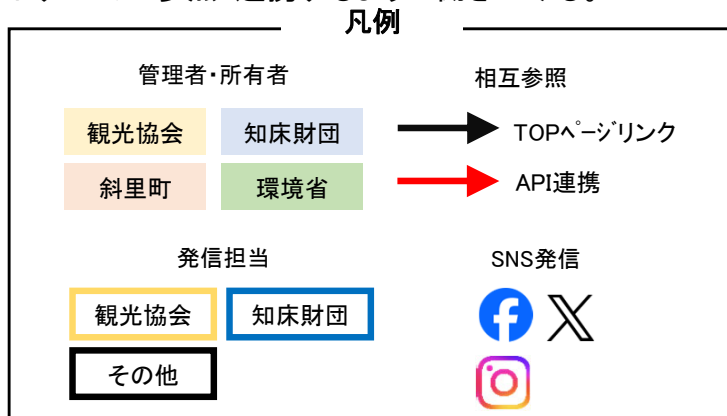
具体的な施策②-1 登山利用者向けのwebサイトの新設

現状と課題

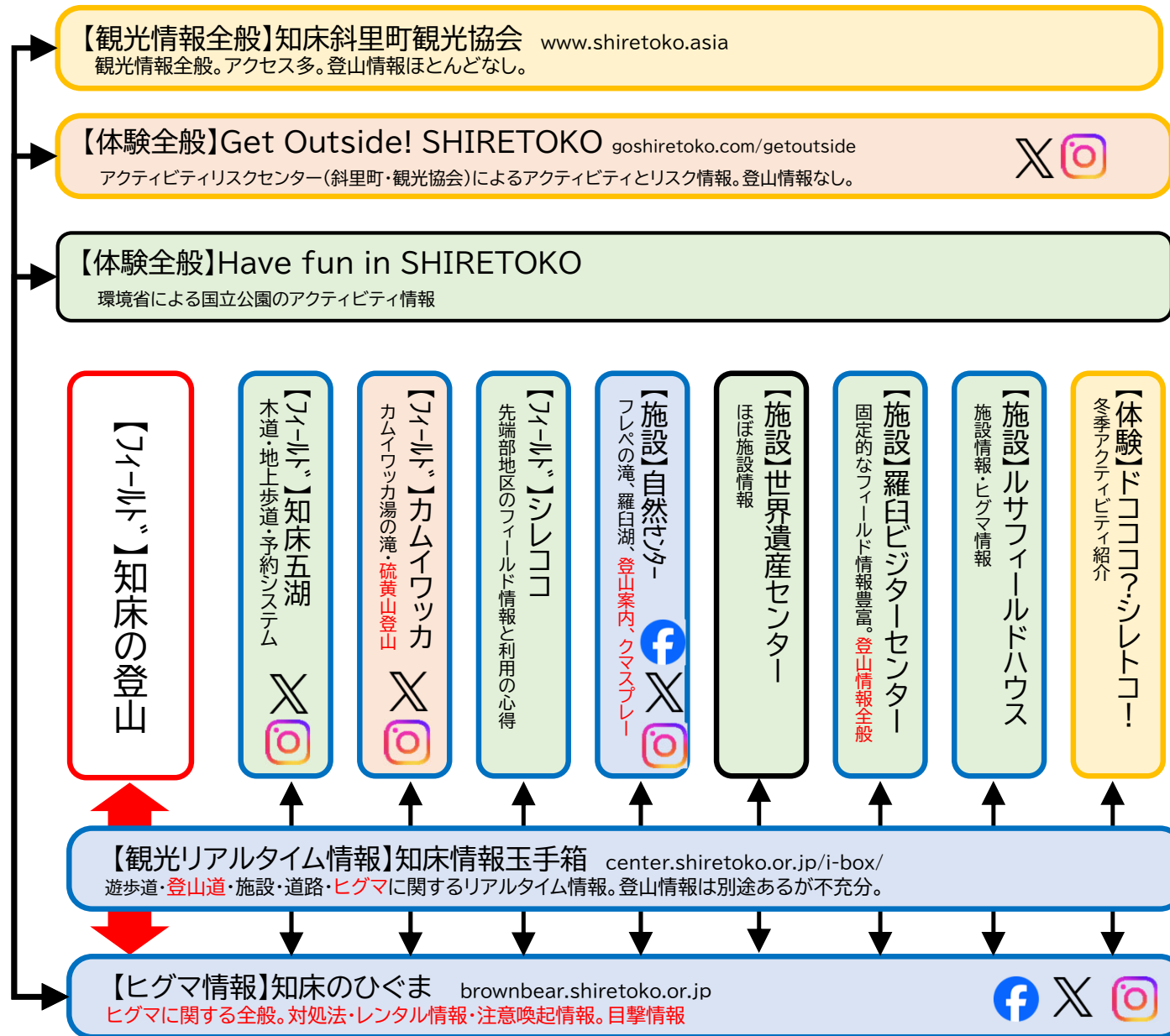
- WebサイトとSNSを中心とした情報発信の現状を右図のとおり整理。特定のフィールドやアクティビティを対象としたサイトを縦軸で、ポータル的なサイトやリアルタイム情報などの横断的なサイトを横軸で表現。
- 登山者への情報提供の観点からは、登山情報が集約されておらず、個別の施設等のサイトに重複して散在していることが課題。
- リスク情報、ヒグマ情報の観点からは、専用サイト(知床のひぐま)の集客力が弱く、主要なサイトからもほとんど参照されていないことが課題。
- ポータル的なサイトについても管理者の異なる類似のサイトが重複している状況。

方向性

- 中央部利用の心得等のルール・マナーや、ルート解説等の登山情報を集約したテーマ性のあるwebサイトを構築する。
- ヒグマ情報については、現行の「しれとこのヒグマ」の構成、コンテンツ、更新体制を見直すとともに、知床の主要なwebサイトすべてが参照・連携するように働きかける。



具体的な施策②—2 webサイトとSNSの連動性の強化



具体的な施策③ 登山前チェックシートの設置

- 登山口に新しく設置する登山前チェックシートにより、登山利用者へ登山やヒグマに関する事前準備を促すとともに、入山人数や大まかな登山行程を把握
- ヒグマ情報の発信については、令和8年度中に媒体の統一を検討予定

登山前チェックシート

岩尾別登山口用

登山前準備の定着状況やコース等の利用状況を把握する目的で実施していますので、ご協力をお願いします。

なお、このチェックシートを有効に活用させていただくためにも、お名前や連絡先など個人が特定されるような事柄の記入はご遠慮ください。

また、このチェックシートの回収は、定期的に行われ、遭難発生時の救助・捜索活動の人数把握等に活用される場合があります。

知床連山等は厳しい自然環境にあり、原生の森林生態系を保護しているため、登山や野営（キャンプ）によって植物等に悪影響を与えないよう最低限の登山道整備しか行っていません。
また、この地の登山は高度な技術と十分な経験を必要とするため、登山者は、事前準備を入念に講じ、リスクを回避することが求められます。ご理解いただけたなら、次のチェック項目について、ご確認の上チェックし、下段の所定の欄へのご記入をお願いします。書き終わったら、ポストに投函願います。

環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町

【登山に関するチェック項目】

- 登山計画書を提出しましたか。ご家族等にも登山の計画を伝えてきましたか。
- ご自分の体力・健康状態と自然条件等を考えて、余裕のある日程等の計画を立てていますか。
- 登山口に掲示してあるルールや各種情報をご確認の上、理解いただけましたか。
- 天気予報をご確認されましたか。悪天候、強風の場合は、登山をお控えください。
- 防寒着や食料、携帯トイレ等必要な装備を十分携行していますか。GPS等の携行を推奨します。

【ヒグマに関するチェック項目】

- この場所は、世界有数のヒグマの高密度生息地であり、ヒグマが至るところに生息しています。掲示情報やWebでの情報等を確認していますか。
- ヒグマに有効な撃退スプレー等ヒグマ対策を講じていますか。
- ヒグマは身体が大きく、いくら対策を講じていても突然遭遇した場合などでは、その危険を回避できないかもしれません。そのことを十分理解されていますか。

北海道警察のホームページ



登山計画書や装備品チェックリストなどが掲載されています

クマ情報

知床のひぐま



知床情報玉手箱



斜里町



羅臼町



【クマ撃退スプレーのレンタル 場所・時間】

◎知床自然センター (8:00~17:30)

◎ルサフィールドハウス (9:00~17:00) ※火曜休館日

◎知床羅臼ビジターセンター (9:00~17:00) ※月曜休館日、ただし7~9月は無休

◎木下小屋 ※冬季休業

登山予定				人数等	目的地	下山予定地	キャンプ 予定地
入山日時	年	月 時	日 分				
				人	<input type="checkbox"/> 羅臼岳 <input type="checkbox"/> 羅臼平 <input type="checkbox"/> 硫黄山へ縦走 他 ()	<input type="checkbox"/> 羅臼温泉 <input type="checkbox"/> 岩尾別 <input type="checkbox"/> 硫黄山 他 ()	<input type="checkbox"/> 羅臼平 <input type="checkbox"/> 三ツ峰 <input type="checkbox"/> 二つ池 他 ()
下山予定日時	年	月 時	日 分	スプレー 個			

具体的な施策④-1 クマ撃退スプレーの普及とレンタル強化

(知床財団独自事業)

- 繁忙期のニーズに対応するため、貸出可能本数を大幅に増加。
- 貸出拠点は知床自然センター、羅臼ビジターセンター、ルサフィールドハウス、木下小屋の4拠点体制を継続。
- 確実な貸出し、手続きの簡略化などを目的とした事前予約システムの導入を検討中。
- 斜里町による「知床観光の安全DX化推進事業」と連携し、レンタルスプレーとGPS付き発信機(ココヘリ発信機)を併せて貸し出す取組みを検討中。利用者の安心と遭難時の早期発見・救助が期待できる。



具体的な施策④-2 フードロッカー、フードコンテナの利用を強く推奨

- フードコンテナのレンタルサービスを継続。貸出拠点は、知床自然センター、羅臼ビジターセンター、ルサフィールドハウスの3拠点体制。
- 先端部地区の利用者を対象とした無料レンタルを実施(羅臼町事業)。
- 各野営場のフードロッカーの維持管理・修繕を継続。使用方法に関する普及啓発の実施。



具体的な施策⑤ 来訪前段階での情報発信

(通年)

- 道内旅行者を対象に、レンタカー事業所でのヒグマリーフレット(外国語版を含む)の配布等によるヒグマとの人身事故防止に向けた啓発
- インターネットやSNSを活用したヒグマ出没情報の発信
- 出没多発地域や被害発生地域に対するヒグマ注意報等の発出により、更なる被害の発生等を防止
- 道民や道内旅行者に対し、ヒグマの生態や出会わないための対策など、理解の促進を図るためヒグマパネル展を開催



(ヒグマシーズン)

- 山野に入る機会が多くなる春と秋の「ヒグマ注意特別期間」にホームページやSNS、ラジオスポットCM等による注意喚起を実施
- 道内旅行者に対し、航空会社による道内空港着便の機内アナウンスや機内誌による注意喚起を実施(7~8月)

